

○提案内容

(1) 実現したい都市のビジョン

『世界に羽ばたく人材を輩出するULHN* 和歌山～都市機能と自然環境の最適調和都市～』

ICTやAIの発達に伴い能力とネットワークがあれば、どこでも働ける社会が到来したこともあり、人々のライフスタイルは「仕事」から「暮らし」中心の在り方へと変化し、暮らしたいまちを選択し、そのまちで仕事をする動きが顕在化している。このような時代にあって、暮らしたいまちとして選ばれるためには、まずは自然環境の良さが大きな武器となる。

この点、和歌山市は商業や医療をはじめとする都市機能が充実しながら、和歌山城、和歌の浦といった歴史的・文化的資源、雄大な紀の川や美しい砂浜といった豊かな自然環境を有している。本市が「住みたいまち」として選ばれるため、最先端技術を活用し、従来から本市が有する「自然と都市機能の調和」といったまちの魅力を最大限に生かした都市機能と自然環境の最適調和都市の実現を目指す。

加えて、可処分時間が拡大した成熟した社会においては、どのような人々と交流し、どのような学びを得られるかということも重要視される。そこで、和歌山市にしながら世界の人々とながれる最先端の超行動型アントレプレナー実践教育を提供し、これからの時代を切り拓くグローバル人材を育成するとともに、世界に先駆けた人口減少局面における地方都市の地域課題解決モデルを創出していく。

*ULHNとは、都市と自然が最適に調和した暮らし「Urban Living-style in Harmony with Nature」の略である。

(2) 新技術の導入により解決したい都市の課題

※課題については、別紙2の(ア)～(シ)の課題分野への対応を記載ください(複数ある場合は、課題ごとに対応を記載ください)

解決する課題のイメージ	課題の分類
<p>①川をはじめとする豊かな自然に触れられる快適なまちに向けて(環境) 本市の森・山・川といった豊かな自然環境に磨きをかけ、次世代につなぐことが求められている。近年増加傾向にある温室効果ガス排出量を削減するため、環境負荷の少ない移動手段への転換促進や再生可能エネルギー導入などの取組を進める必要がある。また、市の中心部を流れ和歌山城の外堀にあたる市堀川沿いでは、近年多くのイベントや社会実験が実施され、人々の憩いの空間として賑わいが生まれつつあるものの、市堀川と交わる大門川は生活排水の流入等により水質が悪く、市堀川も含めた市内の景観にも悪影響を及ぼしているため改善が求められている。</p>	<p>(イ) (ク)</p>
<p>②世界に羽ばたくグローバル人材の輩出に向けて(人材育成) 大学進学時の県外流出率が全国で最も高く、大企業が少ないこともあり、若者の減少が課題である。近年、新たな大学の誘致により3大学の開校が進められ、資格専門職人材の育成に取り組んでいる。この動きに加え、今後は、これからの本市や我が国の社会・経済をけん引する起業家を育成することが課題と考えている。地方都市にしながら世界トップクラスの最先端の教育環境の提供が求められる。</p>	<p>(キ) (サ) (シ)</p>
<p>③暮らすように旅ができ快適に移動できるまちに向けて(観光及びネットワーク) 関西国際空港から近いこともあり、インバウンドを中心とした本市への観光客は増加傾向にある。域内人口が減少局面にある中で、交流人口や関係人口を増加させるとともに、ホスピタリティを向上し、域内消費拡大のほか、新たなイノベーションにもつなげていくことが求められている。また、空き家などの低未利用の官民遊休ストックが多数存在することから、リノベーションまちづくりにも力を入れており、継続的な有効活用が必要である。さらに、今後は、観光客を目的地までシームレスにつなぐMaaSの活用も重要な課題である。</p>	<p>(ア) (オ)</p>

(3) 具体的に導入したい技術(既に想定しているものがある場合)

①川をはじめとする豊かな自然に触れられる快適なまちに向けて(環境)

- ・自動運転技術が搭載されたEVの地域内交通への導入
- ・河川の水質改善の技術(光触媒水浄化技術、バクテリア等の活用、グリーンインフラ、ビオトープなど)
- ・家庭排水の浄化技術(汚水や排出物の各戸完結型の処理システムなど)
- ・環境啓発のための技術(VRを使って数十年後の同じ場所の様子を見られるなど、環境に関する取組の重要性を実感的に伝える仕組みなど)

②世界に羽ばたくグローバル人材の輩出に向けて(人材育成)

- ・5Gをはじめとする高速通信技術
- ・五感を使って世界中の人と関わったり、歴史・文化を体験したりできるVR技術
- ・ICTにより国境を越えて人とつながるための同時言語変換技術
- ・自らの行動を定期的に振り返り、フィードバックをくれるAIシステム

③暮らすように旅ができ快適に移動できるまちに向けて(観光及びネットワーク)

- ・自動運転技術
- ・MaaS、シームレス交通(複合経路検索サービス等)
- ・シェアサイクル(キャッシュレスや多言語対応、交通系ICに対応)
- ・新交通システム(LRTなど)
- ・ZEHをはじめとするエコハウスの導入

(4) 解決の方向性(イメージでも可)

①川をはじめとする豊かな自然に触れられる快適なまちに向けて(環境)

自動運転技術が搭載されたEVを地域内交通に導入し低速移動の定期ルートを創出するなど、交通弱者の移動の自由を確保するとともに、温室効果ガスの削減を進める。また、水質が問題となっている大門川について、いわゆるグリーンインフラを含めた最先端の技術を導入し、水質改善に取り組む。さらに、公共下水道が普及していないエリアにおいては、各家庭完結型の汚水処理や廃棄物処理の仕組みを導入する。これにより、市中心部の水辺環境や景観を改善し、本市の環境面の取組の象徴として、市全体及び世界中へ波及させていきたい。そして、人々が訪れたいくなるような憩いの空間を創出し市民の環境意識を一層向上させるとともに、将来的には「環境配慮型都市」としてのブランドを定着させていく。

②世界に羽ばたくグローバル人材の輩出に向けて(人材育成)

高速通信技術により世界中とのリアルタイムな高画質での中継環境を実現し、市内の学生らが世界的な起業家からレクチャーを受けられる環境を整備する。また、ICT教育と現場での実践を組み合わせることにより、例えば生徒は週に1回自分が目指す道の先駆者から遠隔指導を受けながらビジネスプランを考えていくなど、リアルとバーチャルの融合による超行動型アントレプレナー実践教育を実現する。

③暮らすように旅ができ快適に移動できるまちに向けて(観光及びネットワーク)

海外や他地域から訪れた方々が、地域での暮らしを体験しながら、空き家をエコハウスとしてリノベーションして滞在する「和歌山版ツーリスト・イン・レジデンス」を行う。この取組でツーリストはアントレプレナー実践教育への参画を可能とする。例えば、来日前から高速通信技術等により学生やプロジェクトに関わっていた海外のアントレプレナーが、滞在中にリアルな場で学生にレクチャーを行い、学生と共に更なるエコハウスのリノベーションを進めるなどの交流体験を可能とし、和歌山における新たなツーリズムとしての確立を目指す。同時に、MaaSの導入等により、ツーリストを含め人々が目的地までシームレスかつ快適に移動することを可能とする。

(5) その他

○部局名・担当者・連絡先(電話及びメール)

部局名	担当者	連絡先(電話)	連絡先(メール)
総務局企画部企画課	川岸	073-435-1015	kikaku@city.wakayama.lg.jp